

TOYAMA ていーちゃーず 第4回 開催レポート カレッジ



「授業づくり」のポイントを学ぶ講座（富山県民会館にて）

2月21日（土）、全4回にわたり開催されてきた「TOYAMA ていーちゃーず、カレッジ」は、いよいよ最終回を迎えました。これまで積み重ねてきた学びを確かめ、これから教壇に立つ自分を具体的に思い描く、まさに集大成と呼ぶにふさわしい一日となりました。

授業づくりの本質に迫る

午前は、西部教育事務所による講義からスタートしました。「授業づくりのポイント」をテーマに、子どもたちを「受け身」にしないための工夫について考えました。

実際の授業映像をもとに、参加者は「学ぶ側」ではなく「先生側」の視点で観察。どのような仕掛けがあり、どんな問いが投げかけられているのか。なぜ子どもたちは前のめりになるのか。細やかな工夫を見つけ出しながら、授業の構造を読み解いていきました。

一つひとつの場面に意図があり、何気ないやり取りの裏に緻密な設計があること。授業は偶然の積み重ねではなく、準備と想像力の結晶であること。を、あらためて実感する時間となりました。

地域とつながる学びの可能性

続いて、東部教育事務所より、図画工作・美術の授業を例にした講義が行われました。

印象的だったのは、学校の外へ視野を広げる視点です。地域の文化施設や伝統産業と連携した実践例を通して、学びが教室の中だけで完結するものではないことが示されました。鑑賞や体験を通して子どもたちが自ら考え、感じ、表現する。その過程こそが、これからの時代に求められる力につながっていく——そんなメッセージが込められていました。

また、すべての子どもが安心して学べる環境づくりについても触れ、特別な配慮を「後から足す」のではなく、最初から誰もが参加しやすい設計を行うことの大切さを伝えました。その視点は、授業観だけでなく、教育に向き合う姿勢そのものを問いかけるものでした。

教師自身が地域を知ることの大切さにも触れ、土地の歴史や産業、文化を理解することは、子どもたちとの距離を縮めることにもつながることを伝えました。

学びを“かたち”にする、 集大成の一日

ました。教育は、地域とともにあるということ。これを改めて実感する時間となりました。

若手教員との懇談会。 「先生の実践」に触れる

午後は、若手教員との懇談会。少数のグループに分かれ、率直な対話が交わされました。採用試験に向けての準備や学生時代の過ごし方、日々の積み重ねの大切さ。具体的な経験談が語られる一方で、教員を目指した理由や、現場で感じる喜びと葛藤についても話

題が広がりました。

部活動や時間の使い方、うまくいかなかった経験をどう乗り越えたのか。何気ない日常の中にあるやりがい。子どもの成長に伴走できる瞬間の尊さ。現場のリアルな声に触れながら、参加者は「教師として生きる」姿を具体的に思い描いていきました。

質疑応答では、採用試験や面接に関する質問も多く寄せられました。準備の仕方や心構えなど、先輩から実践的なアドバイスが共有され、参加者の「不安」が「安心」へと変わる様子も印象的でした。

採用選考検査の最新情報

最後に、富山県教育委員会 教職員課より、教員採用選考検査についての説明が行われました。公式情報の見方や日程、変更点など、受験に向けて押さえておくべきポイントが丁寧に示されました。

情報を正しく知ること、安心につながる。制度を理解することで、準備の方向性が明確になる。現実的な一歩を踏み出すための時間となりました。

*

全4回にわたり行われた「TOYAMA ていーちゃーず、カレッジ」。授業



若手教員との懇談会



採用選考検査についての説明

教職の魅力発信動画「一生、青春。」公開中！



【教員志望必見!】
「一生、青春」vol.1
富山県教員イメージPV



【教員志望必見!】
「一生、青春」vol.2
富山県教員インタビュー動画



富山県教員採用案内
(富山県 HP)



富山県教育委員会教職員課公式アカウント



(旧 Twitter) @kyousai_toyama

LINE

